

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(12) — 佐渡奉行の見た砂金山 —

佐渡奉行 川路三左衛門(1840
 (41在任)が、天保12(1841)年
 3月18日に西三川砂金山を視察した
 時の様子を日記に記しています。

それによれば、西三川の止宿先をこ
 の日の午前8時前に出立した川路奉
 行は、ももひき・はん纏姿で峻険な山道を1
 里ほど歩き、砂金山に到着。

砂金の稼ぎ場は、相川とは異なり
 砂と石の赤い山で、小松などが生い
 茂っている。そこを段々に掘り崩し、
 数十丈あった立残山は、半分に切り崩
 されていて、このことから「立残山」
 となったのだろう。山の脇には堀のよ
 うなものがつけられ、山裾をくわに似た
 もので打ちかき、土を盛るようにし
 ている。「水はいかに」と役人がいうと、
 人足が「とくよし」と答え、しばらくし
 て、あられが降るような、時雨のおひたし
 く降りかかるような音がして、空堀は
 谷川のようになった。そこを人足がくわ
 のようなもので掘り、その下流に2尺
 ばかりのむしをならべ、2人一組で魚を
 採るような所作をする、そこに溜まっ
 た砂をゆり板に溜めてゆすると、たち
 まち5分(1.8g)ほどの砂金が採れた。

ここから2丁ばかり谷間沿いに歩
 くと、とどげさか峠坂山に出る。そこも数十丈ば
 かり掘り崩してあり、5から6人の人
 足がくわで穿っていて、その外に「タンナ
 イ爺」という者がいる。この者は、掘り
 進めている山が崩れ落ちるのを監視
 している。山の崩れる兆候が見えると、
 「*タンナイ(間もない)、タンナイ」と
 人足たちに、すぐに逃げるように警告
 するのだ。

川路奉行は、このように砂金流しの
 様子を興味深げに記しています。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業
 改善センター内) ☎63-5136
 ※ほかに「ダイナイ(大事な)」という説も
 ある。



安藤広重「諸国六十八景佐渡金山」に描かれ
 た「タンナイ爺」(中央岩場に座っている人物)
 『佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観保
 存調査報告書』より転載

障がい福祉施設授産品紹介コーナー

第9回 まつはらの家

今年もトキのひなが自然界で誕生し、佐渡の天空を
 羽ばたいています。

そんな佐渡のシンボルでもあるトキをマグネットにし
 ました。

ひな誕生、繁栄を願う親子のトキになっています。や
 んちゃな子どもを親が優しく微笑み見守っている、そん
 な表情の違いを楽しんでください。

作業は出来るところを各々で分担し、みんな心を込
 めて製作しています。

佐渡のお土産に大変喜ばれています。また、イベン
 トなどの景品等にもご活用してみてはいかがでしょうか。

◆お問い合わせ、ご注文は電話、ファックス
 またはメールでお願いします。

障がい福祉サービス事業所 まつはらの家
 〒952-1313 佐渡市八幡町303番地2
 ☎52-4744 FAX52-4566
 メール: matuharanoie@hyper.ocn.ne.jp

トキマグネット



それぞれ得意なところを分担して作っています



トキの親子のマグネットです



1個1個手作りです!